

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地		
自己評価作成日	令和 7 年 3 月 12 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症が長く続くGHでは、感染症を持ち込まないことがサービスの一步、今一番の目的と自然となっている。したがって二番館の目標、家庭的な温かい生活を毎月のイベントで一時を楽しんでいただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101511-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101511-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 27 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者其々の状況や思いを汲み取り、心地よい毎日を送って頂けるように配慮する姿勢が見られる。夜間睡眠が難しい利用者には、決まったスケジュールではなく、好きな時間に起床したり、食事を提供したりして柔軟な対応を取っている。これは、ホーム目標である”寄り添った優しい介護”の実践であり、利用者だけでなく家族の安心にも繋がっている。管理者は「利用者に寄り添い、傾聴することを大切にしている。」と語り、職員にもケアに臨む際の重要な事項として、意識づけを行っている。また、家族ともSNSで繋がり、行事や日常の利用者の様子を写真で送ったり、オンラインで交流したりして、様子がよくわかり安心できると、家族から大変喜ばれている。SNSを活用して、家族からも外出やケアに対する要望が挙がり、ケアに反映しやすい体制ができている。施設と家族とが繋がり、情報を共有することで、利用者のより良い生活が形成され、職員のケアの一貫性が生まれている。利用者の外出したいとの要望にも、今後さらに対応できるように、外食の機会を持ちたいと管理者は検討しており、常に”寄り添った介護とは”を意識した、温かい支援が今後も期待できる。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族のような暖かな雰囲気を作り、介護度が異なってもみんなでお笑える家庭を作っている	法人理念はホールと玄関に、ホーム目標と月目標は各ユニットの入り口の目のつきやすいところに掲示している。ユニット会議の際には、理念に沿った話し合いがなされており、職員の意識づけとなっている。月目標は職員が話し合って決めている。新人研修会時に、管理者が理念について説明して理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会ができない状態であるが、地域の方が四季折々の花又は野菜を持ってきてくださり、入居者様の様子をお伝えしている	回覧板や地域交流により、情報が入ってくる。地域の方から野菜や花の差し入れがあり、会話をする機会も多く、良いつながりが形成されている。近所の神社に桜を見に行ったり、小学校で催された秋祭りには、利用者数名が参加した。利用者が描いた絵を発表したり、豚汁を食したりして楽しい時間が持てた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くの桜の木がある家から、桜を見に来るように声を掛けていただき天気の良い日は散歩に出かけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来の運営推進会議ではないが、グループホームでの生活の様子、入居退去の状況等を発信している	町内会長、民生委員、地域包括支援センター、地域住民が参加して、一番館と二番館が合同で行っている。地域包括支援センターから、詐欺に関する注意喚起の話があったり、施設内の行事報告、利用者状況報告がなされ、活発な意見交換ができています。会議内容は、職員にも朝のミーティングで情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター担当者と運営推進会議等で連絡を取って地域の方々へ情報を伝えている	管理者が窓口となっている。詐欺の危険性を地域包括支援センターから注意喚起され、職員に情報を提供した。担当者は、優しく相談に乗ってくれ、話しやすい関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓の開放、玄関の開放、会社として身体拘束廃止に関する指針を作って対応している	虐待、身体拘束委員会を年4回行っている。具体的な事例に基づいて、グレーゾーンで気を付けるべき点を話し合うことが多い。玄関は施錠していません、見守りの体制を大切にしている。	身体拘束委員会の内容を充実させてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を行い特別なテーマではなく日ごろの様子疑問点などを話し合って虐待につながらないように注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に成年後見制度を利用している方がおられ勉強するチャンスを生かしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居当日には十分な説明時間が取れないケースが多いため前もって書面をお渡しし確認をしていたり、入居後には不明な点をお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が希望され、退居結婚される自由な機会があった	家族からは面会時や電話、SNSで意見を聞くようにしている。利用者の様子をSNSを活用して写真を送ったら、喜んで頂けた。家族からは、“外の空気をもっと吸わせてほしい”、“利用者が感情が高ぶったときの対応”についての要望があった。利用者からは、お寿司を食べたいや、外出の要望があり、可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスの中に会社の方針、業務の見直し等の項目を持って提案等を吸い上げるチャンスを作っている	申し送り時やユニット会議の際に、職員の意見を聞き、管理者が他のユニットとの連携を図っている。判断が出来かねる事項に関しては、エリアマネジャーに相談している。日常会話からも話しやすい環境作りに管理者は配慮している。職員から“利用者の排泄失敗で洗濯が多い”との相談に、管理者は親身に具体例を挙げて対応策をアドバイスした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	エリアマネジャーを4名配置し、細かい情報を悩み事相談など、人間関係の改善などを努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報などを休憩室にファイルをしたり見やすいところに掲示したり自己啓発する機会を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を常に持ち知り得た研修内容をホームで勉強会に取り入れ実践している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のそばに寄り添って有限無限の言葉を聞いて本人の望みを理解し安心できる居場所づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にインテークで、できるだけ多くの情報を取り込んで入居すると同時にスタッフ全員で取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークだけでは、現実的生活を送っていただけない為に、入居と同時にしっかりとスタッフの記録とコミュニケーションを心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機掛け、食事の準備や食事、片付け、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみを行っていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の和楽だよりを担当スタッフが書いて生活の様子をお伝えしている 又、ご家族にラインで写メールを送り、近況報告をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある地域の話題と行事などをテレビや新聞で読んで思い出話をしている	面会は対面で行っている。遠方やなかなか来所できない家族とはオンラインで交流している。携帯電話で家族と直接会話を楽しんでいる利用者がいて、職員が操作の手助けをして対応している。利用者の友人や、昔の職場の方が面会に来られた時には、昔を思い出して会話を楽しんでいる様子が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	価値観の違う者同士がお互いに認め合えるようにそれぞれを尊敬の思いで接しその方々に合った話題を話しながら孤独にならないように支援をしている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退去した後も、必要に応じて家族の相談などに対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個々に合った声掛けをして、表情顔色食事の摂取の状況確認しながら自己決定しやすい環境づくりをしている	入居時に生活歴や人生のエピソードシートを家族に記入して頂いている。日常会話や様子からも思いを汲み取るようにしている。会話を大切にして、家族とはSNSを活用して連絡を取り合い、より良い環境となるように配慮している。家族からの”外出させてほしい”との要望や、利用者の感情が高ぶったときの対応策を聞いてケアに活かしたことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安らかに自分らしく暮らしていくことを支援し愛着のあるものを身近に置き安心していただきながら生活の中でその人らしい生き方が出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が一番過ごしやすい空間を作り一人でも多くの入居者様の笑顔が出るような環境づくりに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の考えではなくスタッフ同士で気付きやアイデアを出し合い話しあった結果をもとに作成している	入居時に介護計画を作成した後は、何もなければ3ヶ月後にモニタリングしている。ケアマネジャーを中心に、医師のアドバイスや担当職員の意見、家族、本人の意向を配慮して検討している。その後は6ヶ月おきに見直している。生活援助計画や見直しシートに短期目標を記入し、実際の支援としてどのようにするかを職員で共有してケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の生活リズムを知り少しでも動き方に変化があれば記録に残しスタッフ間で共有し介護計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	犬の大好きな入居者様の為に、近くのドックランに見学(散歩)に行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用を以前から計画しているが、新型コロナウイルス禍の為、再度検討している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医師、看護師とスタッフが密にいつでも連絡を取り合い家族や入居者様が納得のいくように支援している	ほとんどの利用者が協力医に転医している。月2回の往診があり、24時間対応。薬剤師の訪問もあり相談しやすい。他科は、基本家族の付き添いとなっているが、緊急時には職員が対応している。歯科は週1回の診療があり、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の変化を看護師に報告相談して適切な対応をするように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には治療が終わり次第出来る限り早期の退院が出来るように病院と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今期は、2名の方が看取り対応となり、利用者様・ご家族にそった終末を全スタッフが迎える事ができた	看取りは行っており、近年では1名を看取った。入居時に”グループホームでの看取り介護サービス対応指針”にて説明し、家族の意向確認も行っている。終末期に差し掛かった時には、医師の意見を基に、担当職員や家族の思いを反映させたケアに努めている。	デスカンファレンスについて、今一度見直してみたいか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為AEDを設置いつでも利用できるように体験勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と避難訓練を実施している。また、運営推進会議で地域の住民の方々への協力を呼び掛けている	年2回火災訓練、年1回土砂災害対策にて実施。水消火器の訓練や通報訓練も行っている。ハザードマップは、玄関と各ユニットの事務所に掲示してある。備蓄は、同法人内のグループホームのコンテナに水や食料、寝具を一括管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の気持ちの思いを傾聴しながら尊厳やプライバシーの配慮を心かけた対話に努めている	呼称の基本は苗字に「さん」付けで呼んでいるが、利用者の希望で下の名前で呼ぶことがある。居室に入る際には、言葉掛けをしてから入室している。入浴の際には、同性介助を希望する利用者には、可能な限り対応している。排泄失敗時にはさりげなく言葉掛けをし、プライバシーに配慮しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添う中で自分の望みを話されることがあり、その事柄を他の職員と共有し自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活を尊重しながら和やかで張りのある日常生活を送って頂けるよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴し清潔を保持し好みに合った清潔な服を着用していただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら食事ができるように楽しく語らいながら共に食事をするよう努めている	食事はケータリングで提供している。行事食はメニューに組み込まれており、お寿司が好評。クリスマスには唐揚げを手作りした。昼食前には、ラジオ体操と口腔体操を行っている。麺類が喜ばれ、評価当日はうどんが出て、「珍しいなあ」と美味しそうに食している様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を考慮しながら栄養量、水分量を顔色、表情、体調を観察しながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた支援をしている。毎食後必ず口腔ケアの声掛けをしている。また、歯磨きがきちんときれいになってきているかチェックさせていた		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し一人一人の排泄パターンを確認しながら誘導や声掛けをしている。一人一人の人格を尊重しながら支援している	排泄チェックシートを活用し、言葉掛けをして、入居時より失敗やパッドの使用量が減った事例がある。布パンツは2名、夜間のみポータブルトイレを利用する方は2名いるが、昼間はトイレでの排泄ができるように誘導している。失敗時にはさりげなく言葉掛けをし、利用者の気持ちに配慮しながら対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等を取り入れ水分の摂取を記録しながらしっかり摂取していただいている。栄養バランスの良い食事にも努力し便秘予防を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人で入浴できる方には見守りをして安心して入浴していただいている。一部介助、全介助、一人一人の状態、希望を考えて対応し気持ち良い入浴支援を行っている	週3回の提供。浴槽内にほとんどの利用者が入ることができ、ゆったりとした時間が持てている。同性介助を希望する方には、可能な限り対応している。ゆず湯の提供もあり、季節を感じて頂いている。入浴後の保湿剤は利用者の肌の状態を見て、それぞれに応じた保湿剤を塗布している。入浴を拒否する方には、言葉掛けを工夫して対処している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくホールに出てきて活動を促し夜間良眠出来るよう生活リズムを整える支援をしている。一人一人の体調を考慮し安眠や休息の支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成していつでも情報を確認できるようにしている。服薬時は職員が二人で確認したうえで必ず手渡しをして飲まれるまで目配りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びや日々の楽しみなど気分転換の支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ禍、ドライブが主の外出では海の見える景色の良い場所でアイスクリーム又はタイ焼きを食べていただき危険のない対応をしている	初詣に西大寺の観音院に、春には一本松にお花見、秋には閑谷学校に紅葉狩りにドライブに行き、楽しいひと時を過ごせた。近隣のドッグランや神社が散歩コースになっており、近隣住民との交流ができています。利用者の家付近を通って様子を見る機会を作り、利用者が安心してできるように配慮したことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望等に応じて外出時に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に年賀状を出したりいつでも電話をつないでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節にあったお花を生けたり、貼り絵をしていごごちの良い空間を作っている	壁面には、季節を感じる利用者が作成した作品や、絵の上手な利用者が描いた似顔絵が貼られている。畳コーナーにはひな壇が飾られ、利用者がお昼寝をしたり、洗濯を畳んだりして、憩いの場所となっている。午前中はラジオ体操、計算や漢字プリント、ルームマーチでの歩行運動を行い、ほとんどの利用者がホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分ではテレビ、カラオケ、CD等を流して一人一人の希望をかなえている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みを尊重し特に移動時には障害とならないよう安全を心掛けて、必要以上の物は置かないよう配慮している	居室の清掃は毎日職員が行い、清潔に保たれている。利用者がモップ掛けを手伝うことがある。入り口に防火カーテンを設置してプライベートにも配慮でき、利用者の状況に応じて、すぐに対処できるように工夫している。居室には、位牌や使い慣れた家具を持ち込み、利用者は和やかな時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を最大限生かせるよう補助用具を活用したりきめ細かい見守り等で生活環境に応じた支援を行っている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				